

大森第二中学校 保護者通信

令和 2 年 11 月 10 日 大森第二中学校 校長 成清敏治 TEL 3762-6456

☆2大行事が終わりました

合同体育発表会、合唱コンクールの2大行事が10月、無事に終了しました。合同体育発表会は当日(10月10日)が台風、秋雨前線による影響で中止になり、各学年で日程を調整して行いました。3年生全員リレーだけは雨の中での開催になり、ご迷惑をおかけしましたが、他の競技は天候にも恵まれ、平日の授業の中で開催できました。

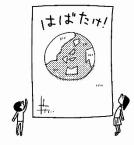
合唱コンクールも、本来であればアプリコ大ホールでの開催ですが、今年は本校体育館で、かつ各学年での開催となりました。練習も制約があり、生徒も苦労した状況ではありましたが、全員で協力して当日に臨み、立派な態度で合唱することができました。

学校行事の目標は、(学習指導要領に)<u>「全校又は学年の生徒で協力し、よりよい学校生活を築くための体験的な活動を通して、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養う」とされています。この2つの行事を通して、大森二中への所属感が増し、</u>笑顔の学校生活が送れればよいと思います。

☆いよいよ3年は進路選択の時期

2大行事を終え、3年生は進路選択へ切り替えの時期です。先週から三者面談も始まり、具体的な進路選択を迫られます。ほぼ全員が高等学校等へ進学する時代です。ただ最近の傾向として、進路選択の幅も多様になってきています。人生という視点で見ると、高等学校等は短い3年間であります。未来は長く、その先に人生のどんな役割を担い、どのような生き方をしていくのかが問われます。

ぜひとも進路選択については、「どの高等学校等へ進学するか」だけではなく、「どんな生き方をしたいか」「どのような職業で社会貢献したいか」も考えていけるような対話をご家庭でお願いしたいと思います。中学校での進路指導は3月で終わりですが、ご家庭での話し合いは長く続いていきます。充実した冬を過ごし、暖かな春を迎えましょう!



☆ちょっとひと休み(家庭教育のアドバイス)

- 〇中2で起業し、"日本教育の違和感"と闘う大学生(仁禮採香さん)
- ○彼女は経済誌『フォーブス』日本版で、「世界を変える30歳未満の30人」に選ばれた経歴をもつ。現在、慶應義塾大学総合政策学部に在籍しつつ、教育事業を行う TimeLeap を経営している。

【仁禮さんのインタビュー】

- ○大人たちは「子供だから何もわからない」と思い込んで何も話さなかったり、質問 しなかったりするのですが、子供たちはスポンジのようなすごい吸収力があるの で、その観察力や彼らの力を信じることを大事にしています。
- ○もっと「教育の多様性」を打ち出す必要があると考えています。教育が画一的とは、 ゴールのバリエーションが少ないことを意味します。
- ○起業家のような新しいものや価値観、未来をつくることに向いている子供たちは 存在する。サポートを受けながら実践できる教育機関が必要です。
- ○先生が完璧でないといけない、親が子供に対して完璧な存在として向き合わない といけないという思い込みは、子供を育むことをしんどくさせているのでは・・・エ ラーな部分、欠けている部分を出していけるようになれば、問題を解決する仕組み を導入したり、助け合いの心が生まれたりすることもできます。